



肢・病併置校 東京都立光明学園 学校通信⑬令和2年2月28日号

# 光明の学び

東京都立光明学園

校長 田村 康二郎

東京都世田谷区松原6-38-27

電話 03-3323-8421

## 卒業期に向けた新たな学校方針を

### 本日配布の「健康の橋」第2弾でお知らせします！

新型コロナウイルス感染症に関する学校における対応については、25日(火)に政府対策本部から「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」、同日、文部科学省から各教育委員会あてに「学校の卒業式・入学式等の開催に関する考え方について(令和2年2月25日時点)」>の連絡文書が送付され、これを受けて26日(水)、東京都教育委員会の教育長から全都立学校に「新型コロナウイルス感染症に関する学校における対応について」の通知>が出されました。

⇒本校では、すでに、21日(金)発出の「健康の橋」でもお知らせしましたように、様々な展開を想定しながら、健康と安全の確保に努めているところです。

★さらに、27日(木)18時過ぎに、政府から全学校の学期中の臨時休校についての要請が示されました。これを受けて本日、都教育委員会から新たな対応指針が各校に通知されました。こうした最新状況に基づく各通知を踏まえて、新たな学校対応の方針を別添の「健康の橋」第2号でお知らせします。必ずお読みください。

### 緊急企画：紙上表彰式

## S・B学園生の活躍を称えて

前号までも速報してきましたが、続々と賞状やメダルが届いています。(以下を参照)努力があつての栄誉です。臨時休業が続くため、本紙上での表彰式とします。皆で称賛の拍手を送りましょう。

◆模範生徒表彰(東京都肢体不自由特別支援学校長会主催)

**鬼頭 恒 殿 (S中3)** 「あなたはタブレットの活用により、コミュニケーションの意欲が向上し、伝達手段を確立することができるようになりました。よってその姿勢を高く評価しここに表彰いたします。」

**井原 健太 殿 (S高3)** 「あなたはコツコツと自分のできることを増やし、生徒会活動に積極的に取り組み、他の生徒の模範となりました。よってその姿勢を高く評価し個々の表彰いたします。」

◆はばたき賞(全国はばたきの会・全肢長会)

**友成 勇介 殿 (S高3)** 「あなたは生徒会長として 部活動活性化のために「横断幕作り」を提案・実行するなど、そのリーダーシップや生活態度は、他の児童生徒の模範であります。ここに本会表彰規定により第43回はばたき賞を贈り、その努力をたたえます。」

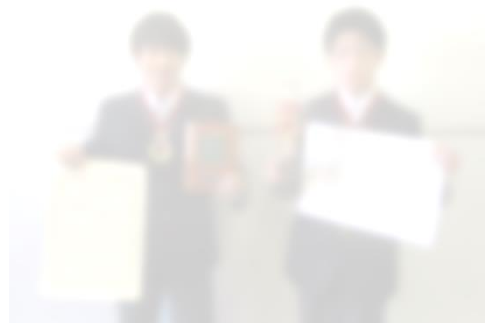
◆防災標語コンクール優秀表彰(東京都教育委員会)

**B部門生徒 殿** 「一家に家族分ヘルメット」



◆全国大会準優勝(全国病弱特別支援学校長会)

**東京都立光明学園Aチーム：B部門生徒 殿** 「表彰状：あなたはロボットプログラミング選手権2019全国大会において優秀な成績を収められました。よってその栄誉を称えこれを賞します。」



#### ◆第5回東京都特別支援学校アートプロジェクト展

**B部門生徒 殿** 「人外の私～不安を感じている～」 出品作品集に掲載されました！（入選作品集）

#### ◆模範生徒表彰（東京都立病弱教育特別支援学校長会）

##### **そよ風分教室Aさん（B高3）**

「表彰状：入院生活の中でも明るく前向きに治療や学習活動に取り組み、光美展では刺繍の作品が入賞するなど、その姿は入院中の多くの学園生の模範になったことを高く評価しここに表彰いたします。」

#### **教職員の表彰～その努力を称えて～**

#### ◆教職員表彰：個人の部（東京都教育委員会）

**大山 衣絵 主幹養護教諭** 理由：特別支援教育の推進

「本都の教育の発展に貢献し、その功績が顕著で勤務成績の優秀な教員の栄誉を称えこれを表彰します。」

#### ◆はばたき奨励賞（全国はばたきの会・全肢長会）

**奥山 敬 主任教諭** 「障害の重い子どもたちの“見ること”の支援・コミュニケーション支援につながる学習指導として「視線入力デバイス」を活用したあなたの実践は、特別支援学校教育の発展に寄与するものであり、高い評価を受けました。今後この実践が全国に普及して広がることを期待し、ここに功績を称えます。」

#### **S・B両部門/新校舎落成記念「光書展」を開催中！**

◆本校や分教室に通う学園生も、在宅訪問学級や病院訪問学級で学ぶ学園生も、誰もがエントリーできる全校書道展の入選作品展を開催しています。第2回目となる今回もプロの書道家の先生に審査に入っただき、部門・学部・教育課程別に審査し、入選作品（アースブルー賞）を選定しました。さらにPTA会長等も招聘しての最終審査委員会で、金賞・銀賞を選定しました。

書道家の先生からは学園生の闊達な創作書道に対してお褒めの言葉を多数いただきました。「次回は私も！」と全学園生の励みとなるように、入選作品展「光書展」を3月中旬まで西棟バス昇降口内特設コーナーで開催しています。御鑑賞ください。

#### **S：都肢体校ハンドサッカー大会でベスト16に！**

2/15（土）、駒沢オリンピック公園で開催の「第31回東京都肢体不自由校ハンドサッカー大会」に参戦の本校部活動チーム「光明サンライズ」が1勝1敗してベスト16に進出できました。

当日は世田谷南ロータリークラブから贈られた燃え

るデザインのユニフォームで出場しました。また、B部門生徒が美術の授業でデザインした「横断幕」を張った大応援席からの御声援、ありがとうございました。



#### **卒業シーズンを前に—証書・呼名・台帳—**

この節目の機会に、大事な「進級」や「卒業」に関して解説いたします。

3月の卒業・進級のシーズンが目前です。今回の卒業式は、従来と異なる規模や形態となる可能性があります。これについては別途お知らせします。

#### **卒業・進級認定**

公教育全般については、全て国会を経た法令等で定められています。学校教育法施行規則第57条には「小学校において、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない」と示されています。

つまり、出席日数だけで決まる訳ではないということです。授業態度や学ぶ意欲等を含めた平素（＝常日頃）の学習の活動成果をもとに決めるという考え方なのです。また関連する通達により、（病気等も含めた）長期欠席の児童についても、適切な方法でその成績を評価する事で、卒業認定できるとされています。さらに特別な事情があれば、それも考慮してよいとされています。全課程の修了・進級・卒業認定は校長が行うことも定められています。そして同規則第58条には「全課程修了者と認められた者に校長は**卒業証書を授与**しなければならない」と規定されています。これが卒業式の根拠となっています。

#### **卒業・進級認定会議**

特別支援学校小学部・中学部・高等部にも上記の法令が適用されますので、卒業認定に関しては、光明学園においても年度末の時期（2月中旬）に、3月末時点で当該学部での在籍月数が3年分の36月（中高）、6

年分の72月(小)に届く見込みの学園生が対象としてリストアップされます。(本人の留学、治療専念や保護者の海外赴任に伴う同行等で休学届が受理されていた期間がある方は、在籍月数が足りないため、その時点では、卒業認定の検討対象とはなりません。)

対象者名簿を作成の上、学級の主任が学園生一人一人の出席・遅刻・早退・欠席(及びその理由)を一覧にし、これと日頃の学習状況の成果を合わせて、進級・卒業の認定可否についての所見をまとめて、認定会議にて校長に報告し、校長が最終決定した後、学年修了証や卒業証書等の作成に進みます。

### 特別支援学校における評価の形

特別支援学校の場合は、小・中・高校の教科書にそった教育内容に基づく数値評価では、学習成果を正しく評価できない児童・生徒が少なくありません。そうした場合には、通知表や個別指導計画で家庭にお知らせするのと同様、学習状況や学習活動成果を詳しく記した文章表記での評価となります。

### 卒業証書と賞状の違い

卒業証書は、法令で定められた全課程修了の証明書と言えるものです。証書の様式や内容は教育委員会が決めます。証書には対象者を特定するために、氏名と生年月日が明記してありますが、証明書であるため、敬称(～様、～殿、～君、～さん)は付記されません。これは運転免許証等と同様です。お手元に免許証がありましたら御確認ください。敬称は付けていません。敬称を省略したのではなく、あくまで氏名特定のための記載です。

一方で感謝状や賞状には全て敬称が付きます。特に讃えるべき行いに対し敬意を込めて謝意等を表すからです。証書と賞状は大きく異なるものです。

### 卒業(証書授与)式と呼名

卒業証書授与時には、教員等が「呼名」しますが、全課程修了者を確認するために、授与者の校長及びお客様である参列の来賓等に対し、卒業生の「氏名」を読み上げます。この場合、自分の身内には敬称を付けないのと同様、お祝いにかけてくれたお客様に、卒業生の呼名は氏名だけを読み上げます。(決して「呼び捨て」ではありません。丁寧に心を込めて氏名を読み上げます。)このとき、卒業生が自発的に自分なりの方法で返

答する姿から、最後の学習に臨む自覚が伝わってきて心に響きます。この後、壇上で卒業証書を校長が文面通りに読上げ、本人に授け(授与)します。大学の学位授与と同等の「サズケル」という形態です。ちなみに、これが表彰状や賞状は授与(式)ではなく贈呈(式)と変わります。サズケルではなくオオクリするとなり、意味合いが全く異なってきます。授与し終わると思わず参列した方々から、全ての学業を成就した卒業生の努力に対し、拍手が湧き起こることが常です。

### 卒業証書授与台帳

卒業証書は、前述のように法令で定められた大切な証書です。卒業証明書は申請があれば卒業後も何回でも発行できますが、卒業証書は再発行できない大切な証書です。証書には開校以来の証書番号が入り、上には割印が押されています。この発行に当たっては卒業証書授与台帳(卒業生原簿ともいいます)の該当欄にも割印が押印され、唯一の正本である事を証明しています。

この卒業生台帳には、年度別/部門別/学部別に授与日と校長名が記された上で、個々の欄に卒業生氏名、保護者氏名、卒業時住所、証書番号が記され、割印が押されます。この台帳は、永年又は100年保存と定められています。指導要録(学籍記録が卒後20年、指導記録が卒後5年)と比べても長期保存です。これは本人が社会で活躍している間、何時でも卒業証明できるようにするためです。

光明学園では、年間数回の履修状況確認会議を経て第3回卒業式に向け、卒業認定会議を終え、卒業証書授与台帳を整え、卒業証書の作成を進める時期をこれから迎えます。証書は担任が心を込めて押印・割印作業や氏名確認をしています。氏名はプロの筆耕家に依頼して毛筆書きとなっています。また紙筒ではなく、授与時に持ち易く保管しやすいバインダー型を採用しています。

校長 田村 康二郎



## S 小学部 せたがや梅まつり

近隣の羽根木公園には650本の梅の木が植えられており、都内でも屈指の梅の名所となっています。小学部では毎年、学年や学習グループごとに5月の梅もぎ、2月の梅まつりに参加しています。

S小学部Bグループでは、梅もぎ、梅まつりともに、オリジナルキャラクターの「こうめちゃん」と一緒に学習を積み重ねてきました。授業の中で梅もぎゲームや、梅まつりのお買い物遊び、「こうめちゃん」との歌を楽しみ、羽根木公園へ出かける当日を迎えました。売店の方とのお買い物のやり取りを通して梅大福や梅かりんとうなど家族へのお土産を購入できました。穏やかな日差しの中で、春の空気を感じながら「うめまつり」の歌を歌ったり、紅白の梅の花と記念撮影を行ったりし、楽しく学習を行いました。

(S 部門小学部 教諭 吉田夏希)



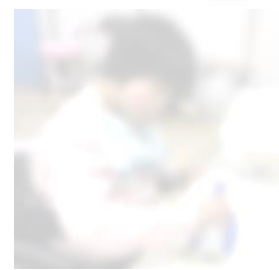
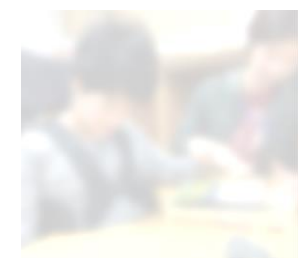
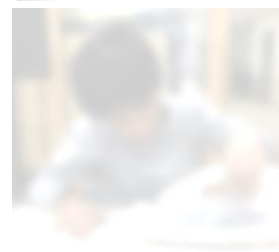
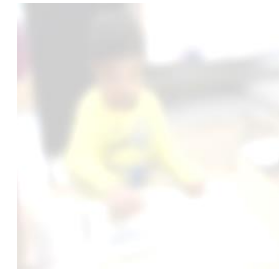
## S 中学部 Dグループ有志による作品販売 2月7日 (金)

第3回全校公開研究会において、S中Dグループ有志の生徒でトートバックの販売を行いました。トートバックは作業学習、職業・家庭の時間を通して、生徒たちが制作したものです。作業学習の卓上織機で制作した毛糸のカラフルな織物を貼り付けたものや、美術で制作した版画をアイロンプリントで貼り付けたものなど、様々なデザインがあります。

販売当日、全国から来たお客様を前に物怖じすることなく、「いらっしゃいませ!」「トートバックいかがですか?」「ありがとうございました!」と元気よく接客を行うことができました。生徒たちが心を込めて制作した製品と一生懸命な接客の甲斐あって、完売することができました。

販売日当日まで一生懸命制作したトートバックをたくさんのお客さんの前で販売した経験は、生徒たちの成長につながるとても良い機会となりました。

(S 部門中学部 教諭 江川拓郎)



## S 中学部・高等部 ハンドサッカー大会 2月15日(土)

駒沢オリンピック公園総合運動場体育館において開催された、第31回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会に参加しました。光明学園は、雷神リーグのⅢブロックに所属し、2試合行いました。

試合結果は、以下のとおりです。

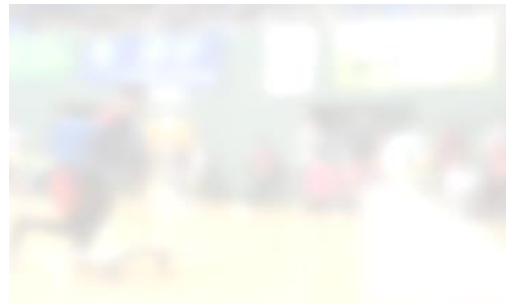
### 雷神リーグ Ⅲブロック

1 試合目	VS 府中けやきの森学園	16 - 17	敗戦
2 試合目	VS 城北・水元小合 合同チーム RED	14 - 13	勝利

結果、1勝1敗でブロック3位となり、リーグ決勝戦および3位決定戦への進出はなりません。勝利まであと一歩及ばず、生徒たちは皆、非常に悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、敗れたとはいえ、これまで練習してきたことを忘れず、自分たちのプレーを最後まで貫き通し、接戦を繰り上げました。

この経験は生徒たちの今後につながると思っています。当日は多くの方が応援に現地まで駆けつけてくださりありがとうございました。

(S部門高等部 主任教諭 松井裕記)



## B部門 全国公開研究会 セミナーにて発表 2月7日(金)

全国公開研究会 セミナー前半「魅力ある併置校作り」において、光美展・光書展でそれぞれ銀賞を受賞した B 部門の生徒が作品を発表しました。多くの方々を前に、学習の成果を報告することができる機会となりました。発表内容を抜粋してお伝えいたします。

「それぞれの良い意見を合わせて、デザインしました。キラリと光る個性を表すために、富士山を赤富士にしたのがポイントです！スローガンは、『生徒の個性や仲の良さが出るようなもの』というところから考えました。“多様性を認め合おう！Ten Persons, Ten Colors！”(高等部2年、中学部2年)

「私が書いた字は『心身一如』です。この字を選んだ理由は、意味を最初に見たときに自分の今までの経験と重なる部分が多く、感銘を受けたからです。銀賞を受賞できたことはとても嬉しく、今後の自信にもつながりました。これからもいろいろなことに挑戦していきます。」(高等部3年 書道I 選択者)

(B部門 教諭 新野 孝幸)

